

第1回食品ロス削減ネットワーク懇話会 議事要旨

1 開催日時 平成30年8月21日（火）午後2時～4時

2 開催場所 大阪府咲洲庁舎23階 中会議室

3 出席者

神戸大学大学院経済学研究科教授 石川 雅紀

株式会社ダイエー管理本部総務・お客さまサービス部リーダー 中山 大輔

株式会社グルメ杵屋 総務部門長 加藤 誠久

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会西日本支部長 樋口 容子

大阪府流通対策室 課長 山本 誠一

4 議事

(1) 食品ロス削減ネットワーク懇話会の座長について

(2) 食品ロス削減ネットワーク懇話会の概要説明

(3) 小売や外食での食品ロス削減の取組について

・食品ロス削減キャンペーンについて（平成30年10月実施）

小売の取組について

外食の取組について

・食品ロス削減賛同制度について

(4) 食品ロス実態調査について

・家庭の実態調査について

・製造業者のアンケート調査について

(5) 来年度の事業展開について

5 内容

(1) 食品ロス削減ネットワーク懇話会の座長について

○要綱に基づき構成員の互選により、座長は神戸大学大学院経済学研究科石川教授に決定。

(2) 食品ロス削減ネットワーク懇話会の概要説明

○資料2により事務局から説明

(3) 小売や外食での食品ロス削減の取組について

《食品ロス削減キャンペーンについて、資料3-1、3-2により事務局から説明》

○主な意見

- ・外食における食品ロスは提供した料理の食べ残しだけでなく、仕入れ量に比べてお客様が少なく、食材の使用期限が過ぎてしまう仕込みロスの影響も大きい。
- ・小売での取組は、来店される店舗に来てくれるお客様には理解いただけるが、食ロスは国民皆に知ってもらう必要があるため、メディアの活用が必要。取組は継続性のあるもの、誰でも簡単に無理なく取組めるものが望ましい。

- ・小売店においては、お弁当の廃棄が多い印象があるかもしれないが、廃棄物の重量で比べると青果物が多く4～6割を占める。
- ・キャンペーンでは、食ロス削減につながるメニューをその場で作って試食できるのがいい。こんなにおいしいもの、しかも栄養もあるといった見せ方ができる。
- ・PRの仕方が大事。例えばキャベツの外葉の利用は汚れている印象があるかもしれないので農薬など心配なく、栄養があるといったデータで示せばいいと思う。
- ・夏休みに親子で実施できるような取組は活動しているところがメディア的にも絵になる。
- ・食べきりに対して取組むとのことだが、持ち帰りについてはどうか。
- ・持ち帰った後に不具合が生じて、持ち帰りが原因かはっきりせず、責任の所在が難しい。原因じゃないのにクレームを言う人が心配。
- ・小ポーションの人は値段も安いとなおいしい。食べ放題なのに食べられないと損した気分になる。食べきれないのに取ってきて食ロスになってしまう。きめ細かく金額にも反映させるといい。
- ・キャンペーンで値引き品を集めて売ることについては、食ロスが減るというよりお客様が買いやすい方法であり、結果として食ロスが減ると考える。

《食品ロス削減賛同制度について、資料4-1、4-2により事務局から説明》

○主な意見

- ・別々の自治体がステッカー配布など個別バラバラに実施してはお客様に何も伝わらないと考える。また、他の制度もあり、店舗の入り口はステッカーだらけになっている。
- ・例えばクーポン券に、大阪府が認証していることを明記すると毎回お客さんが認識できるので有効と考える。
- ・クーポン券などに大阪府認証を明記するのは有効。自治体への信頼はある。クーポンには関心があるから消費者も見る。取組自体への後押しは意味がある。
- ・賛同制度について、ステッカーを貼って終わりではなくて、飲食店や小売店が具体的な取組ができ、行政的な裏打ちをするような内容にするべき。

(4) 食品ロス実態調査について

《家庭の実態調査について、資料5-1により事務局から説明》

《製造業者のアンケート調査について、資料5-2により事務局から説明》

○主な意見

- ・食品ロス削減につながるメニューなど、レシピを紙に書いて提供ではなくキーワードで検索できるように。検索キーワードを知らせる方が汎用性は高い。
- ・余りがちな材料で検索という手法はリアリティがあり、消費者に伝わりやすい。

(5) 来年度の事業展開について

《事務局から口頭で説明》

○主な意見

- ・家庭の食品ロス実態調結果から、捨てられるものトップ10でその食材を活かしたコンテンツを消費者対象で実施するのもおもしろい。

- ・食は大阪に合っている。残り物お好み焼き選手権など。
- ・結果とつながってどういう風にやるか。PRという目で見ると、PRの専門家も入れて、メディアに取上げてもらうのを目的にして実施すると大分違ってくる。
- ・食品ロス削減はやっていること事態が企業イメージを良くする。マイナス要素はないと考える。取組を消費者が押し付けられるのではない方法で進めるべき。
- ・最初は行政主導でも、最終的には市民主導でできたらいい。

○まとめ（座長：石川教授）

- ・今日はアイデア出しが目的。すごくフランクにいろいろアイデアが出せた。来年度の取組のアイデアの話もできたが、もっと検討が必要なので、今後懇話会メンバー個別でも検討を進めていきたい。ご協力いただきたい。